

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。その一週間前、私は念願の技術士二次試験に合格できました。浮かれた心が凍りついたことを痛烈に記憶しています。

いまは、多くの人たちの思いと行動が、絆という形で復興支援につながっています。私も技術士として社会活動できるのは、多くの方とのつながりや絆の助けがあるからだと思っています。

学生時代、担任の先生は、幕末の志士坂本龍馬について、「彼が素晴らしいのは多くの人脈を構築したことだ」と説かれ、社会に出たら人脈づくりをするようにと教えていただきました。

社会人になり、生意気にも人の器(うつわ)について、会社の先輩と朝まで会話したことがありました。社会経験によって器は大きくなるのではないか？という私の思いについて、「人の器は大きくなるとは限らない」とおっしゃっていました。

資格を有し、社会活動をしてまいりましたが、自身の器はなかなか大きくなりませんでした。叱咤激励してくださる諸先輩、様々な分野の方々の意見をいただけるようになった今、人脈によって器が増えたのではないかと考えています。

これまで、多くの方々とのつながりや絆に助けられ、器というたくさんのご協力をいただきました。その宝物を大切にするとともに、後輩たちへ引き継いでいこうと思っています。

技術士という資格をご教授くださった先輩、取得に向けてご尽力いただいた先輩の方々に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。そしてこのバトンは、次世代に絆としてつなげていきます。

## 菅原 瑞生(すがわら みずお)

●建設部門(建設環境)

### 勤務先

ダイシン設計株式会社  
m-sugawara@dacc.co.jp



→次号は、佐藤俊義さん(建設部門)

大学を卒業後に就職した元の会社では工事に所属し、施工管理に従事した。いつの世も同じで、御免状が無ければ仕事はさせてもらえない。必要に迫られ最初に取得した資格は動力巻上装置の運転、そうウインチである。その後、甲種火薬類取扱保安責任者・足場の組立て等作業主任者・玉掛・測量士・1級土木施工管理技士といった具合に、これまた必要に迫られ何となく取得した。経験も

ソコソコ積んで自分では一人前の現場代理人のつもりでいた32歳の春、コンサルタント部門へ転属辞令。

かなりの擦った揉んだを経て少しコンサルらしくなってきた36歳のとある朝、キッチンと片付けて帰ったはずの机の上に、誰の仕業か技術士二次試験の願書が此れ見よがしに置いてある。らしくなってきただけの自分が受けるような資格ではないと思いながらも、大先輩であり技術士でもある常務の好意を無にすることもできず、これっきりと決め暑い試験会場で途中退席も叶わず、白紙答案を提出した。

コンサルらしい資格の必要に迫られRCCMを取得し、メシの種だけは確保しつつ予てからの趣味であるゴルフが佳境を迎え、アマチュアゴルファー憧れのシングルプレーヤーとなった39歳の時、机上願書事件から4年連続で受験していた部下でもある後輩がマズイことに見事技術士となってしまった。

自意識過剰な私は否応なしに無言のプレッシャーを感じ、技術士にならなければ夜も日も明けぬ、技術士にあらざばコンサルにあらざ(笑)とばかりに毎朝4時起床の受験生と化し、42歳の朝4時すぎに配達された北海道新聞の紙面に自分の名前を確認し、ここからが本当のコンサル修行とも知らずにほくそ笑んでいた。あれから16年、必要は発明の母ならぬ、必要は合格の母というお話でした。

## 細川 順治(ほそかわ じゅんじ)

●建設部門(土質及び基礎)  
●総合技術監理部門

### 勤務先

北海道キング設計株式会社  
j-hosokawa@hori-group.co.jp



→次号は、佐藤良次さん(建設部門)